

「未来を守ってくれた税金」

国立広島大学附属三原中学校3年 西川 颯祐

僕には自慢の兄がいる。その兄は僕が小学校一年生の時、難病にかかり九か月間入院した。入院に付き添う母にもかなり負担がかかったようだった。そして僕も祖母に預けられ家族はバラバラになってしまった。しかし入院費に関しては、「乳幼児医療」という制度のおかげでほぼ負担はなかったようだ。それに加えて、「特定医療費（指定難病）受給者」の資格を得たらしい。今回受給者証を見せてもらった。僕は今までこの制度を知らなかったのだが、この制度を利用すると、月々の医療費負担の上限が一定額以内になる。つまり兄が「乳幼児医療」の受給者資格を失ってもこの制度により医療費が一定額を超えないため、安心して病気と向かい合い治療することができるのだ。

難病と共に生きている人にとって、医療費の問題はとても重要だ。定期的な投薬や通院が必要なため、多額の医療費がかかることも多い。ただでさえ辛い病気を抱えているのにその上医療費の心配までしていたら、精神的に追い込まれて病状が悪化してしまうかもしれない。高額な医療費の心配をせず療養に専念できることは、とてもありがたいことだと思う。僕は近くで兄を見てきたので、それがどれだけ助かることかがよくわかる。

兄は、退院後「難病を抱えていると、それだけで色々負担が大きい。でもこの制度に『がんばってね。一人じゃないよ。応援してるからね。』と背中を押してもらっている気がする」と言っていた。僕はそれを聞いて制度のありがたさを痛感した。インターネットで調べてみると国民医療費の財源は四十%近くが税金だった。僕達は気づかないうちに税金に支えられているのだ。困った時に支えてくれる税金の存在を、僕は今まで正しく認識していなかった。税金は本来は自分のものであるお金を取られてしまうものだと思っていて、税金を払うことによって、困っている誰かを支えることができるということに気付かなかった。それを知った今、僕は未来を守ってくれて、困った時に支えてくれる税金にとってもとても感謝している。もし多額の医療費の負担がかかっていたら兄や僕の望む進路は叶えられなかっただろう。正しく納税している納税者のおかげだ。

しかし最近少子高齢化が進み、社会保障費が増大していると聞く。このままだと社会保障費が不足し、僕たちを支えてくれた医療費も、十分な財源が確保できなくなるだろう。そうならないよう、これから色々な知識を得て、どうすればいいか考えたい。増税により負担が増えるのは嫌だが、そうしないと幸せな未来が守れないなら、増税するべき所と、しない所のバランスを考えなければならないと思う。そして、将来は正しい知識を得て正しく納税し、困っている人達を支えたい。かつて僕達が支えてもらった様に。